

知求会ニュース

2021 年 5 月

第 78 号

◎ 博士前期課程、入学おめでとうございます！

国際学研究科博士前期課程の後継である地域創生科学研究科 博士前期課程 社会デザイン科学専攻グローバル・エリアスタディーズプログラムにおいて修士（国際学）11 名および多文化共生学プログラムにおいて修士（学術）21 名が入学されました。

◎ 博士後期課程、入学おめでとうございます！

国際学研究科博士後期課程の後継である地域創生科学研究科 博士後期課程 先端融合科学専攻グローバル地域デザインプログラムにおいて博士（工学）・博士（学術）・博士（国際学）21 名が入学されました。

◎ 学長・理事ならびに副学長就任（敬称略）

学長	池田 宰
統括理事（企画・評価担当）・副学長	藤井 佐知子（再任）
理事（学務・社会共創担当）・副学長	吉澤 史昭
理事（研究・情報担当）・副学長	横田 和隆
理事（総務・財務、事務統括担当）・副学長	佐藤 規朗（再任）
理事（大学運営全般担当）	鈴木 邦雄（再任）
副学長（グローバル戦略、基盤教育改革、学生支援担当）	松金 公正

◎ 掲載記事紹介

1. 下野新聞（令和 3 年 4 月 2 日）4 面に、宇都宮大「多分野と『共創』図る」池田新学長ら新体制発表の記事が掲載されました。
2. 下野新聞（令和 3 年 4 月 2 日）4 面に、《人事》コーナーの宇都宮大の中で「副学長（国際学部教授）松金公正先生と国際学部長（国際学部教授）中村 真先生の記事が掲載されました。
3. 放送大学栃木学習センター「とちの実」（2021 年 4 月号 No.120）2 頁に、《巻頭言》コーナーで「後退することの意味を改めて考える」の題で出羽 尚先生の記事が掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. UUnow 第 52 号（令和 3 年 4 月 20 日）4 面に、「新学長に聞きました！」の題で永島良恵さん（国際学部国際学科 4 年）らの記事が掲載されました。

2. UUnow 第 52 号（令和 3 年 4 月 20 日）14 面に、「宇大生は今！」コーナーで「グルメから宇都宮を盛り上げる『みやめし応援隊』」の題で永島良恵さん(国際学部国際学科 4 年)・横須賀千夏さん(国際学部国際学科 4 年)らの記事が掲載されました。
3. UUnow 第 52 号（令和 3 年 4 月 20 日）14 面に、「宇大生は今！」コーナーで「若者の投票率向上を目指す『#GOVOTE1115 プロジェクトチーム』」の題で永島良恵さん(国際学部国際学科 4 年)らの記事が掲載されました。

*** 『HANDS next—とちぎ多文化共生教育通信』のお知らせ**

2007 年 9 月 20 日に、ニュースレター『HANDS』第 1 号が発行されました。2010 年度より宇都宮大学特定重点推進研究グループ通信『HANDS』がリニューアルされ、『HANDS next』として再出発することになりました。

第 26 号(2021 年 2 月 22 日)

2020 年度外国人児童生徒教育推進協議会報告

国際学部教授 田巻松雄

「多言語による高校進学ガイダンス」

コロナ禍での多言語による進学ガイダンス

多文化公共圏センターコーディネーター 鄭 安君

「多言語による高校進学ガイダンス」

多言語高校進学ガイダンスへの感想

国際学部国際学科 1 年 Kaneshiro Teixeira Linda Katherine

学生ボランティア感想

「やる気」を引き出すこと

地域創生科学研究科 1 年 莊 敏霖

学生ボランティア感想

R 君の目の中の光

地域創生科学研究科 2 年 李 美雪

学生ボランティア感想

学生ボランティアについて

宇都宮市立旭中学校 日本語指導教室担当 古田敦子

学生ボランティア感想

学生ボランティアの皆様へ 「心からのありがとう」

真岡市立真岡小学校 日本語教室主任 法師人明子

『宇都宮大学 HANDS 10 年史—外国人児童生徒教育支援の実践—』を読んで

脚本家・ライター 松島恵利子

「多言語進学ガイダンス動画」のお知らせ

田巻松雄・鄭 安君

HANDS 刊行物のご案内

多文化公共圏センター事務補佐員 **小野寺櫻子**

報告「すべての外国につながる子ども若者の教育保障を考えるシンポジウム」

国際学部客員准教授 **若林秀樹**

事務局日より

—令和2年度の活動—

1. 外国人児童生徒教育推進協議会（栃木県教育委員会 後援）
2. 外国人児童生徒教育支援のための学生ボランティア派遣（通年）
3. 多言語による高校進学ガイダンス
多文化公共圏センター主催：2020年9月21日（オンライン開催）
下野新聞社主催の栃木県高等学校進学フェアへの参加：2020年9月22日（宇都宮マロニエプラザ）
栃木市教育委員会と共催：2020年10月3日（栃木市役所）
4. 外国人教育相談（栃木県国際交流協会）：月1回（新型コロナウイルスの影響でオンラインや電話で対応）
5. 授業科目「グローバル・イシュー研究演習ⅠⅡ」開講（前期・後期）
6. 『宇都宮大学 HANDS 10年史—外国人児童生徒教育支援の実践—』の刊行：2020年8月31日
7. シンポジウム「公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える」：2020年12月5日～6日（田巻松雄科研グループ主催、多文化公共圏センター協力）
8. ニュースレター『HANDS next』第26号の刊行：2021年3月中旬
9. 栃木県における外国人生徒の進路状況調査：2021年2月～3月

◎新刊案内

1. **重田康博**・太田和宏・福島浩治・**藤田和子**編著『日本の国際協力 アジア編～貧困と紛争にどう向き合うか～』を本年6月にミネルヴァ書房から刊行予定。
(<https://www.minervashobo.co.jp/book/b577603.html>)
2. **阪本公美子**・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編～経済成長から「持続可能な社会へ」～』を本年6月にミネルヴァ書房から刊行予定。
(<https://www.minervashobo.co.jp/book/b577607.html>)
3. 国際学部と国際学部附属多文化公共圏センターより3月下旬に、**多文化公共圏センター年報** 第13号 272頁が刊行されました。目次を以下に記します。（敬称略）
はじめに **国際学部附属多文化公共圏センター長 丁 貴連**
Ⅰ 特集「ウィズコロナ時代の国際学部の挑戦」
1：コロナ禍における国際学部の取り組み

「はじめに」	重田康博
「学務委員会の学生支援の概要」	重田康博
「コロナ禍と学生によるピアサポート活動」	清水奈名子
「COVID-19による学生生活への影響と支援ニーズ —国際学部学務委員会によるアンケート調査より—」	高橋若菜
「教務委員会の対応と課題」	米山正文
「入試関係の対応について —オンラインによる特別入試の実施と広報活動—」	中村 真
「学部・研究科国際交流委員会の取組み」	柄木田康之
「コロナ禍での同窓会活動と学生支援への取組み」	吉葉恭行
「まとめ」	佐々木一隆
2：コロナ禍を受けた多文化共生社会の課題	
「在日外国人労働者が直面した困難 —コロナ禍の影響を受けた技能実習生を中心として—」	清水奈名子
「コロナ禍のこんな時こそ、夜間中学の必要性はいよいよ増している」	田巻松雄
“COVID-19 in Peru: government policies and an assessment of their outcome”	Ana Sueyoshi
3：2020年国際学部のSDGsの取組み	
「SDGsの達成に向けた国際機関の活動とキャリア形成の視点 —国際機関の職員（境悠一郎氏、田邊宙大氏）と宇大生による座談会—」	藤井広重
「宇大生によるオンラインSDGs映画上映会 座談会」	高橋若菜
II 特集「新しいセンターづくりに向けて」	
「問題提起」	丁 貴連
「これまで（2008年から2020年）のセンターの歩み」	倪 永茂
「主要事業の活動内容と成果、課題」	
(1) HANDS事業	
「地域により開かれたセンターへ—多様な学びの場を地域で支えるために」	田巻松雄
(2) グローバルセミナー教育	重田康博
(3) 福島原発震災に関する研究フォーラム	清水奈名子
(4) 日光プロジェクト	重田康博
「提案」	丁 貴連

Ⅲ 投稿論文

「もう一つの韓流ドラマ『星を射る』(2002) から読み解く韓国人の精神世界―」

丁 貴連・檜宿英子

「ドイツにおける異文化間教育研究の歩みと現在」

―『異文化間教育ハンドブック』を手がかりとして―

立花有希

“Mobile research labs to explore nature-based solutions in Japanese cities

-a way to bridge disciplinary divides?“

Bernadett Kiss and Carl F. Salk

「中島敦の南洋認識―「雞」(1949)を手がかりとして―」

陳 佳敏

「中国の大学における翻訳課程の概要と授業の実践」

方 小賛

「児童養護の脱施設化に向けた政策に関する国際比較」

―アジア 4 ヶ国を対象として―

増山貴子

「高学歴中国朝鮮族の韓国への移動の実情と適応」

鄭 春美

Ⅳ 活動報告

- 1 第9回グローバル教育セミナー「難民問題とグローバル教育Ⅱ」
- 2 <シンポジウム>国際交流都市日光の再発見
- 3 <宇都宮大学生国際連携シンポジウム 2017>中東理解連続セミナー
- 4 益子プロジェクトの「マインドフルネスをしよう」
- 5 「福島原発震災に関する研究フォーラム」2017年度の活動報告

Ⅴ 関連資料

- 1 組織・年度活動報告
- 2 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報発行要綱
- 3 新聞記事

特別寄稿

「宇都宮大学のこれからについて」

中村 真

本年4月1日から、国際学部長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。

感染症拡大の状況が続くなかで、みなさんはどのように過ごされてきたのでしょうか。宇都宮大学では、これまで遅れていたデジタル化の対応が徐々にではありますが進められつつあります。Zoomを活用した、オンライン授業など、つい1年ほど前までは想像でしかなかったことが身近な日常になりました。修了生のみなさんとも、このような情報ツールを使えば、これまでになく気軽に話ができるものと思います。

さて、国際学部長は、これまでは国際学研究科長を兼ねておりましたので、知求会に、このようなごあいさつ文を寄稿することも自然なことでありました。実際、私自身は、国際学部、および国際学研究科の設立時から在職していますので、まさに、こうした、学部と研究科が一体化した教育研究の環境の中で過ごしてきました。しかし、近年、その状況は大きく変わりました。

すでにご存じの方もおいでかと思いますが、宇都宮大学全体で大学院は大きく改編されました。既存の研究科を統合し、文理を融合した一つの研究科、地域創生科学研究科が2019年4月に開設されたのです。この研究科は、社会デザイン科学専攻と工農総合科学専攻の2専攻から成り、それぞれが複数のプログラムによって構成されています（参考リンク：<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/academic/graduate.php>）。

これまでの国際学研究科に係るものは、社会デザイン科学専攻の中の、主に、グローバル・エリア・スタディーズプログラムと多文化共生学プログラムの2つです。昨年度末に、修士（前期）課程のはじめての修了者を送り出しました。また、昨年には、博士後期課程も認可され、この4月には、博士課程一期生を受けいれました。博士後期課程は、先端融合科学という1専攻で、国際学研究科と関係しているのは、グローバル地域デザインプログラムになります（参考リンク：https://www.utsunomiya-u.ac.jp/grdc_d/）。

このような改編により、国際学研究科については、現在在学中の大学院生の修了をもって、形式的にはその役割を終えることになります。ただし、新しい、グローバル・エリア・スタディーズと多文化共生学という2つのプログラムは、かつての国際学研究科の国際社会研究、国際文化研究、国際交流研究という3専攻の教員に加え、とくに多文化共生プログラムには教育学部に所属している人文学分野の教員も多数加わり、新たな発展の可能性をもつ教育プログラムになっていると感じています。

なお、現時点ではまだ将来計画という段階ですが、今後は、学部レベルにおいても、全学的に組織改革を進めるための検討が始まりつつあり、国際学研究科修了生や国際学部を卒業されたみなさんがご存知の宇都宮大学からは、かなり様相の変わった編成になっていく可能性も出てきました。何年か後になると思いますが、研究科と学部が有機的に結び付いた、新しい宇都宮大学の姿が報告されるものと思います。

大きく変わりつつある社会環境の中で、今後のあるべき大学の姿について模索していく日々になります。修了生の皆様には、ぜひ、改革についてのご助言をお寄せください。

（2021年4月21日原稿受理）

研究室訪問 54 第9号から国際学研究科に係る内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

博士録 55 第22号から国際学部、国際学研究科に係る同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

知求人 36 第 9 号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

海外だより 31 第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

海外留学今昔 32 第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 20 知求会ニュース第 41 号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

キャリア指南 15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2021 年の阜月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦労しています。)

「コロナ禍と韓国文化」

金 多希

国際学部、国際学研究科前期・後期修了生の金多希です。

2001 年に来日して以来宇都宮市で暮らしており、現在、宇都宮大学で非常勤講師として朝鮮語基礎・朝鮮語応用の授業を担当しています。

長年の日本生活は、昨年の初頭から全世界に広がっている新型コロナウイルス感染症によりすっかり変わりました。大学の授業もリモート授業になり、「不要不急」ということで 1 年以上家族以外の人と一切お茶飲みすらない生活を続けています。誰もが経験したことのないとはいいい、長期化する今の状況は、一個人はもちろんのこと社会や国々を取り巻く環境を大きく変化させています。

このような変化から「新しいライフスタイル」としてこれまで聞きなれなかった「コロナ禍」や「テレワーク」、「ステイホーム」、「巣ごもり需要」などの言葉が飛び交う中、2020 年は、アカデミー賞でアジア映画としては初の作品賞を受賞した映画『パラサイト 半地下の家族』に端を発して韓国文化、つまり「韓流」が再注目されました。

2020 年ユーキャン「新語・流行語大賞」にノミネート・TOP10 入りした韓国ドラマ「愛の不時着」やアメリカのビルボード TOP100 に 1 位になった韓国のボーイグループの BTS、

その他、韓国グルメ（K-FOOD）や韓国コスメ（K-COSME）などが次々と話題になり人気を集めました。

とりわけ、韓国ドラマ「愛の不時着」は 2020 年ヒット商品ランキング＜日経トレンドイ
が選んだベスト 30＞で 12 位になり「第 4 次韓流ブーム」の火付け役となったといわれて
います。

実に韓国語授業を担当していて、以前に比べて韓国ドラマや K-POP などに興味を持つ学
生たちも年々増えていますが、昨年は特に「コロナ禍」とともに韓国文化が大いに活躍し
たともいえるのではないかと思います。

そもそも、韓国文化、つまり「韓流」は、2002 年の日韓共同開催 FIFA ワールドカップを
きっかけだったと思います。思い返してみると、来日当初は、韓国エンタテインメントのと
ころか、ある日本人は“韓国にイチゴやスイカはあるの？”とか、“韓国は戦争や軍事政
権で危険な国だね”など、日本人にとって韓国は未知の国であるということがよく分かる
質問を受けたこともありました。

ところが、2003 年 NHK で放送された韓国ドラマ「冬のソナタ」のヒットで初めての「韓
流ブーム」起き、「韓流」という言葉そのものが日本で広がるようになりました。「冬の
ソナタ」の主人公であるベ・ヨンジュン、いわゆる「ヨン様」ブームは、主に中高年層の
女性がブームの牽引役となっていたという印象です。その勢いでからか、翌年は、「BoA」
や「東方神起」といった韓国の歌手が日本に進出し、韓国の音楽に関しても少しずつ関心
を寄せるようになりました。

それから 2010 年は、「第 2 次韓流ブーム」といわれている、「KARA」、「少女時代」、
「BIGBANG」などの韓国のアイドルグループが次々と日本メディアに進出することになり
ました。本格的に K-POP という韓国のエンタテインメントが日本の若者を中心に人気を集
め、日本メディアを通してたびたび耳にすることになりました。このブーム前後は、今の
ようなスマホや SNS の環境ではありませんでしたが、「キムチ」や「ビビンバ」、「プル
コギ」、「クッパ」などの韓国料理名の知名度も上がり、もはや日本における韓国文化と
いうよりは生活の一部的な感覚になってきたように思われます。

ところが、2016 年頃からスマホや SNS の普及にともなって 10～20 代の若い女性を中心
とした SNS の投稿・発信は、「インスタ映え」という流行語のもとで、その人気のコンテ
ンツとして「チーズタッカルビ」、「チーズハットク」や「BTS」、「TWICE」など盛り上
がりを見せていました。

2021 年現在、ある日突然始まった「コロナ禍」で生まれた「第 4 次韓流ブーム」は SNS
を駆使する若者発から今は若者だけでなく幅広い世代に触れるきっかけをもたらしたよう
です。まだまだ不安定な状況が続く中、「新しいライフスタイル」は人とのコミュニケー
ションの希薄というデメリットから、また、その弊害ともいわれる孤立や孤独が問題にな
っています。しかし、「コロナ禍」で改めて人とのつながりが大事だと実感し、SNS やメ

ディアを通して「韓流」という韓国文化に触れながら、お互いの経験や問題などが共有し、その中で、癒されたり頑張ることができたと思います。

(国際学研究科 国際学研究専攻 第2期修了生 / 国際文化研究専攻 第8期修了生)
(2021年3月29日原稿受理)

東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん(国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生)が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から年2回発行(4月1日、9月1日)の変更になりました。

EU支部だより

第38号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会 EU支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の38号の内容は、1 イタリア、埋葬できなくてごめん…巨大広告で亡き母に謝罪、当局に圧力 2 12歳少女ら「静かに」抗議、伊トリノで学校再閉鎖 3 26日からコロナ制限緩和 低感染地域で飲食店など再会 4 EU支部だより一行動の違いです。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

編集者のひとりごと

●本年4月より宇都宮市でも、文部科学省が主導している GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想が始動しました。主導母体は2019(令和元)年12月19日に設置された文部科学大臣を本部長とする GIGA スクール実現推進本部です。GIGA スクール構想の理念は、「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現」を標榜しています。具体的目標は「1人1台端末整備、安心・安全な端末活用」を目指しています。子どもたちのしなやかな柔軟性と好奇心により、タブレットをいかに道具として使いこなしていく様子が目に浮かびます。世界各国にいる知求会会員の皆様にはそれぞれの国の教育事情を教えていただければ大いに参考になりますので、積極的に投稿してください。

編集後記：2010年4月26日から **知求会ニュースのバックナンバー**は 国際学部同窓会 HP (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっています。

同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。**chikyukai@freeml.com
